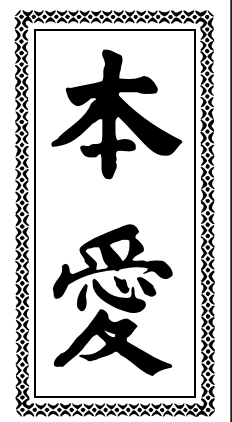


二代会長様五十年祭厳かに

安藤治正・二代会長の五十年祭は1月29日、大教会神殿にて厳かに勤められた。明治37年に安藤正吉初代会長の長男として生まれ、昭和47年に68歳で出直されてから50年。年祭では安藤吉人・六代会長が祖霊殿で祭文を奏上し、晩年に至るまで本愛の教勢進展の陣頭指揮を執り続けた二代会長様の遺徳を偲んだ。



発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部



昭和11年に本愛分教会(当時)二代会長に就任した安藤治正会長は、理の親である東本大教会に対しては報恩感謝の思いで尽くされ、部内に対しては常にたすけ一条のよろこびを伝え続けられた。特に「青春の夢は布教の夢」との思いを胸に、浜松

年間活動目標
創立110周年に向かって
今日を陽気に。
おつとめ おたすけ ひのきしん

へ単独布教に赴き、本濱分教会を設置するなど、本愛の布教の伸展に晩年まで尽力された。また、現在の大会会神殿の普請においては、心のふしんの重要性を説かれ、自ら全国の布教地を回って親心を注がれた。一方で本部では布教部次長、本部常話、厚生部長などを歴任。時代に即したさまざまな行事や活動を企画・実行された。

故人の遺徳偲ぶ
昭和47年2月5日に68歳で出直されてから半世紀。大教会では二代会長様の遺徳を偲ぶ五十年祭を執行。1月24日には世話人の松村義司・本部員祭主のもと本



1月24日には本部祖霊殿において、安藤治正二代会長の五十年祭が勤められた。

部祖霊殿で(写真左)、同日には大会会神殿で(写真上)厳かに勤められた。大教会祖霊殿では、安藤吉人会長が祭文を奏上。「ただいまは『創立110周年へ今日を陽気に。』と活動目標を定め、おつとめ、おたすけ、ひのきしんの心を揃え、信仰の喜びを伝え広めて、人たすけに邁進する部内教会をも御心放たずお見守りください」と願った。この後大会会神殿では二代会長の写真を集めたスライドショーが当時の神殿講話の音声を変えて上映され、故人の面影を偲んだ。

3月のこよみ	
入社祭・春季霊祭	1日 午前10時
よふき会例会	2日 午前10時
女子青年例会	6日 午前10時
こはる会例会	9日 午前10時
月次祭	13日 午前10時
青年会例会	13日 午前10時
布教実修所	14日 午前10時
むつみ会例会	16日 午前10時
こども食堂M.O.G.U	17日 午後5時
婦人会例会	20日 午前10時
少年会本愛団第52回総会	21日 午前11時
修養科志願者面接	25日 午後1時
本部月次祭 (於 本愛詰所)	26日 午前9時
春の学生おぢばがえり	28日 午前10時

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人



前回は、柏手はなぜ4回
なのかを取り上げました。

動画を観た方から「私も幼
い頃に柏手は『しあわせ』
と心で唱えて打つんだよと
教わりました」といった感
想を多く頂きました。

中でもある方の「当たり前
前過ぎて、考えたこともあ
りませんでした」とのコメ
ントが印象的でした。この
「当たり前」について、少
し考えてみたいと思います。
ただ、現代の私たちにと
つての「当たり前」ではあ
りません。教祖御在世当時
の人々の「当たり前」です。

「26日」の意味

日時を考えると、日本
では現在「陽暦」が使われて



が使われていました。
陽暦を使う現代の私たち
は、おちばで祭典が勤めら
れる26日という日の意味を
あまり意識することはあり
ませんが、この日を陰暦で
読み解くと、非常に重要な
意味が見えてきます。

陰暦では、26日は「逆三
日月」(写真)の日で、深夜
零時に出た月が、太陽が昇
った後も真南の空に残りま

います。これは地球
が太陽の周りを1周
する時間を1年とす
る暦です。しかし明
治5年12月2日以前
は、月の満ち欠けを
基準とする「陰暦」

す。月と太陽を昼の空に同
時に拝するのが陰暦26日な
のです。

立教の日である天保9年
10月26日(陰暦)は、午前
8時に月が真南にありまし
た。教祖が神のやしろとお
定まり下された時間です。

また、教祖が現身を隠さ
れた明治20年陰暦正月26日
は、午後1時37分に月が西
の空に沈んだことが計算か
らわかっています。

二十六日というは、始め
た理と治まりた理と、理
は一つである。(中略)二
十六日は夜に出て昼に治
まりた理(明治29年2月
29日)

という「おさしづ」から
もこの日に込められた教祖
の重要な思召を推測するこ
とができます。

ちなみに、今年令和4年
の2月26日は陰暦1月26日
に重なりました。これは実
に19年ぶりのことです。
今日が何日かを月から推

測することは、明治以前は
当たり前なことでした。し
かし、教祖が込めてくださ
ったであろう思召を推測す
ることは現代の私たちにと
つては難しくなってしまう
ています。だからこそ今、教

祖御在世当時の人々の感覚
に思いを馳せることは大事
なことだと思えます。そこ
から「教祖ならどうおっし
やっただろうか」と想像す
ることにつながっていくの
ではないでしょうか。

今年の大教会の年間目標
として「今日を陽気に。」
と掲げました。これもお道
の人であれば当たり前のこと
です。当然過ぎて意識す
られないかもしれませんが、
あらためて考えると毎日を
陽気に暮らすことは簡単な
ことではありません。

初代会長様が説かれたこ
とも考えてみればすべて当
たり前のことばかりです。
この「当たり前」をどう実
践するかが大切なのです。

連載の内容を YouTube でご覧いただけます！

今回の連載の内容を動画でも配信中！
『本愛誌』連載企画と一緒にご覧いただくと、
より理解が深まります！



チャンネル登録

教理随想

言わん言えんの理を探る



信仰の日々に
おいてよく対比
して使われる言
葉が、理と情で
す。

理とは一般的
にも、原理、真
理、道理などと
使われるように、
物事が成り立つ
根本の筋道を意
味します。一方、

情は、感情、愛情、人情な
どと使われて人間の心の動
きを表し、時に激しく揺れ
動いたり変化したりします。
言い換えると、いかに時代
や状況が変わろうとも絶対
に変わらないもの、変えて
ならないものが理。反対に
時代や状況の変化に伴って、
常に動き、変化し続けるも

のが情であるといえるでし
よう。

信仰生活の中で、理と情
のどちらも大切であること
はいうまでもありません。

特におたすけの場面では、
親神様の思召を深く悟る理
の思案と、身上や事情で悩
む相手の心情をよく考える
情の思案の両方が重要で、
常に教祖ひながたの道を拠
り所に、両者のバランスを
見極めながら、相手の心が
たすかるように導くことが
おたすけであります。とこ
ろが理は、絶対に動かして
はならないにもかかわらず、
時として人間思案の情や我
欲に流されそうになること
はないでしょうか。特に現
代は物が豊かで、周囲に膨
大な情報があふれているゆ

えに、そうした状況に陥り
やすいともいえます。

本愛の歴史を振り返る時、
どんな中も理の思案を第一
にして思いを巡らし、情や
我欲を後回しにして、しば
一条・親一条の信念を貫い
てきたのが先人布教師でし
た。そしてその誠の心に不
思議なたすけの実が現れて
本愛の道は伸展してきたの
です。私たちは今、初代会
長様をはじめ、道の礎を固
めてくださった先人の道す
がらを思い起こし、当時と
今とは形や姿や方法は大き
く異なっても、理を第一
に考える信仰信念を忘れな
いようにしたいものです。

思案の道は伸張してきたの
です。私たちは今、初代会
長様をはじめ、道の礎を固
めてくださった先人の道す
がらを思い起こし、当時と
今とは形や姿や方法は大き
く異なっても、理を第一
に考える信仰信念を忘れな
いようにしたいものです。

■理を立て切る信仰

ところで近年、夏になる

と豪雨によって河川が急激
に増水したり氾濫する場合
が少なくありません。川が
危険水位を超え、猛烈なう
ねりと勢いで流れる濁流に、
橋や家屋が飲み込まれそう
になる映像はよく見かける
ところです。鉄製の頑丈な
橋脚ならまだ安心ですが、
木造の古い橋では濁流に流
されて崩壊してしまわない
かと誰もが心配になります。
橋が崩れたら、住民の生活
に甚大な被害が及ぶことは
間違いありません。

信仰上の理と情を考える
時、脳裏に浮かぶのがこの
光景です。押し寄せる濁流
は、あふれる情報と我欲の
波。橋脚は、その中で絶対
に流されてはならない天の
理。もちろん厳然たる天の
理そのものは流れたり消え
たりはしませんが、油断を
すると我が心の中で理が埋
もれたり、ねじ曲がってしま
いかねません。教祖の次
なる年祭に向けて、新たな

決意を定めるべき大切な旬
にあつて、もう一度理を立
て切る信仰を心に確立する
ことが重要だと痛感します。
理を立て切る第一の道は
おつとめの実践です。自分
の都合を後ろへ回し、教会
のおつとめ奉仕者として誠
の心で奉仕する教会のおつ
とめ。これによって理が輝
き、運命切り換えの種が伏
せ込まれていくのでありま
す。

また外へ向けてはいつも
人のたすかりを祈り、おさ
づけを取り次いで一言の教
えを伝える。上手くできて
もできなくても、この積み
重ねの中に理づくりが果た
されていくのです。

コロナ禍の出口はなかな
か見通せませんが、どんな
中でも情に流されず、心の
中心に理を据えて、もう一
歩、もう一軒と積極的に自
らが動いて、人だすけと真
実の理づくりを進めていこ
うではありませんか。

【第 87 回】

人間思案の情に流されず
真実の理づくりの励む旬

コロナ禍の出口はなかな
か見通せませんが、どんな
中でも情に流されず、心の
中心に理を据えて、もう一
歩、もう一軒と積極的に自
らが動いて、人だすけと真
実の理づくりを進めていこ
うではありませんか。

本愛大教会 公式ホームページ開設!

便利なコンテンツが満載!

大教会からのお知らせ
沿革、活動報告
本愛誌バックナンバーの閲覧



本良心分教会初代会長
長良源二之霊の五十年祭
同分教会三代会長
長良順子之霊の十年祭
本良心分教会では2月20
日午前11時より、初代会
長・長良源二之霊の五十年
祭並びに、三代会長・長良
順子之霊の十年祭が、大教
会長を祭主として同分教会
で行われた。

1月の初席者
本晃(本晃道) 深川 愛鐘
本愛中 大橋 涼斗
以上2名

おぢばで学び、伏せ込み、信仰の喜びを実感しよう!

第970期 修養科生大募集

《集合・面接》 ☆日時… 3月25日 午後1時 ☆場所…本愛詰所

※3月20日までに神殿事務所へお申し込みください。

大教会日誌

令和4年1月25日～令和4年2月24日

1月

26日 本部春季大祭

28日 婦人会創立記念の日

29日 安藤治正二代会長五十年祭(於:大教会)

祭主・大教会長 扨者・野田正道、青木健裕

指図方・大倉八郎 賛者・長尾誠、津田豊郎

31日 常任役員会議◇役員会議

12日 常任役員会議

13日 月次祭

祭主・大教会長 扨者・松原友治、杉村善男

指図方・大倉八郎 賛者・坂倉敏男、中島裕信

◇学生層育成者講習会

講師・清水慶政先生

(学生担当委員会委員・兵神大教会長)

2月

1日 入社祭

祭主・大教会長 扨者・大橋進、加藤成幸

指図方・大倉八郎 賛者・伊藤寿輝、山本治行

◇祭典講話—野田正道

2日 よふき会例会

6日 女子青年例会

◇大教会長挨拶

青年会例会

14日 布教実修所

16日 むつみ会例会

17日 こども食堂MOGU(参加者50人)

20日 婦人会例会

23日 こはる会例会